

環境デザイン学専攻	研究分野	都市施設設計学	Lab. ID ED11
研究室Webサイト	http://pk1pv08.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/chikata/labo1/		
研究課題の概要			
<p>社会基盤の整備・蓄積が進み、最近ではそれらの維持管理の必要性が認識されるようになりました。公共構造物の維持管理の基本姿勢は、事後保全から予防保全に移り、経済的な制約の中で、持続可能な道路ネットワークの補修計画立案のための方法論を検討しています。特に、橋梁の点検データの分析に基づく補修計画支援手法に注目した研究を行っています。また、構造物の設計方法も性能照査型に移行しつつあり、安全面・使用性はもとより、重要構造物では景観性の側面からの評価も必要になっており、評価手法に関する試みを行っています。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>M1では、コースワークのほかに、構造解析や統計解析のためのツールを使いこなせるように上級生主体の指導による計算機ゼミ(不定期)、研究課題について議論する研究ゼミ(原則、毎週)を研究室全体で行っています。後者では、各人が1週間の成果を報告し、それに基づいての議論を経て自習までの課題を考えます。M1を終えるころには修士論文の到達点が見える状態を目標にしており、M2前半の就職活動を行いやすくしています。D生(社会人)は、研究の進展状況の報告をうけながら、随時集中的に議論を行うようにしています。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>学部、大学院いずれも研究室の学生毎にパソコンが与えられて自由に使える環境にあります。データ分析やプログラミングがうが主体の研究室なので、時間的な拘束は緩いです。社会人D生は研究面以外でも学部生たちの進路選択などでもよき相談相手になっているようです。研究ゼミ以外にも、研究、さらにそれを離れた相談に学生は気軽に教員室に来ています。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>計画的に研究を進めることで、エンジニアとして仕事に携わる準備ができればと思います。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	北陸3県の橋梁点検データに基づく劣化傾向の回帰分析		
2016.3	MTA 法を援用した橋梁評価指標の検討		
2015.3	パターン認識手法を援用した北陸地域における鋼橋RC床版の劣化予測		
2014.3	社会基盤施設を対象とした劣化予測のためのマルコフモデルに関する研究		
2013.3	SOMを援用した橋梁点検データの分析		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2014.3	土木構造物の維持管理計画におけるゲーム理論の適用に関する研究		
研究室連絡先メールアドレス	chikata@staff.kanazawa-u.ac.jp		